

芦屋市幹部のパワハラ問題は「第三者委員会」で！

今年6月16日、6月定例会「一般質問」で芦屋市幹部のパワハラ疑惑を質し、マスコミ報道が追随、市の調査結果でパワハラ認定されました。しかし、この調査は昨年9月、被害職員と伊藤市長と共に2度も面談した佐藤副市長が調査委員会の委員長を務めたことや加害幹部職員のパワハラのきっかけなどの「肉声」が一切ないなど多くの点で不十分さは否めないものでした。

このため、中立・客観性を担保した弁護士など外部の専門家で構成される「第三者委員会」での徹底調査を求めるしかないとの思いで9月9日の「一般質問」では「内部の人間の甘い調査では第2、第3のパワハラが起きる。専門家による『第三者委員会』を立ち上げ、再調査をするべき」と要望しました。(左 神戸新聞 見出し参照)

その後、10月9日に「第三者委員会」設置を求める決議を議会の3分の2の多数で可決。“ボール”は市側に移りました。

神戸市立小学校の教員暴言・暴行事件などで「第三者委員会」が真相解明に大きく貢献した以上、また、本市の不十分な調査を払拭するためにも、このパワハラも第三者に委ねるしかないという判断です。

部下に暴言
市長ら 適切な対応せず

芦屋市幹部パワハラ

八月八日 読売新聞 朝刊より

芦屋市パワハラ問題

第三者委の設置要望

市会一般質問 市議 「再調査を」

九月十日 神戸新聞 朝刊より

市職員対象の実態調査 “6人に1人” がハラスメントを受けた・・・

今回の幹部のパワハラを受けて今年7月、市は職員全員にハラスメント実態調査行ない、回答率は57%台と低いものの、2割近い職員がパワーハラスメントを含めハラスメントを受けたことがあるとの衝撃の実態がこのほど明らかとなりました。そして、市の一連の対応には、職員から「ダメ対応の見本」、「リスクマネジメントの失敗」などの辛辣な意見も見られました。また、調査の体制について「問題が起きたら第三者での検証を徹底すること。市役所内の検証では、隠ぺいするインセンティブ（動機付け）が生じ客観的なものとはならない」、「ハラスメント認定には、外部の人だけで行わないと公平な判断ができないのではないか。市の調査委員会では仲良しの人ばかりで、事実がもみ消されてしまうという憂慮がある」といった手厳しい指摘が職員からなされ、その健全な意識には、この問題をいち早く追及してきた議員として、救われた思いです。

芦屋市議会議員 大塚 のぶお の 議会報告

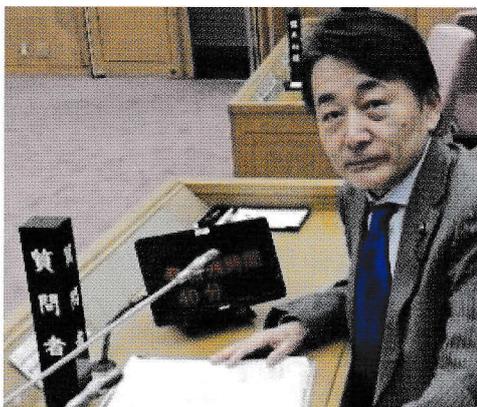
HP nobufr30.com

芦屋市幹部のパワハラ問題をめぐる経緯

2019年 8月9日	市役所のある課から8名の職員の連名で上司である幹部のパワハラ調査を求める「申出書」が人事課長に出される
9月13, 25日	市長と副市長がパワハラ被害者を含む職員と2度にわたり、5時間近くも面談
2020年 6月16日	大塚市議が「一般質問」で初めて幹部のパワハラ疑惑を質すも、伊藤市長「個別案件にはお答えできない」との答弁に終始
17日	神戸新聞 → 芦屋市幹部パワハラか 職員証言、心身に不調も ABCテレビ『キャスト』、NHKテレビ『ニュース845』でパワハラ疑惑を放送
29日	佐藤副市長を委員長とする市の調査委員会を設置、調査へ乗り出す
7月3日	MBSテレビが『News ミント』でパワハラ疑惑を放送 → 昨年9月の被害職員と面談の際、伊藤市長「課長3人で上司と闘って欲しい」
4日	産経新聞 → 芦屋市長「パワハラ」把握 昨年9月、被害職員と面談
8月7日	市が調査結果発表 幹部を「パワハラ認定」し「停職1か月」の懲戒処分に 伊藤市長「市政運営に大きな混乱を招き、信頼を損ねたこととお詫びする」
9月9日	大塚市議「一般質問」で「第三者委員会」を設置し、再調査をするべきと要望
10月9日	市議会本会議で「第三者委員会」設置を求める決議が3分の2の多数で可決

パワハラ問題追及で見えたもの、そして目指すもの

今回の幹部のパワハラ行為は遅くとも3年以上も前からあったもので、一過性、偶発的なものでなく、組織的、構造的との見方を捨て去ることができませんでした。「第三者委員会」が設置されて、調査となればこの点は氷解するものと期待します。前時代的な組織風土が役所内を覆い、職員の半数が回答した調査でも、6人に1人がハラスメントを受けた、というだけにこうした澱んだ風土を一新し、職員一丸となって、モチベーション高く職務に打ち込める職場環境を取り戻すひいては、しなやかな組織にすることが、より良質な市民サービスの提供に結びつき、納税者たる私たち市民のためにも有益なものとなるはず。それこそが、議員として私が今回のパワハラ問題追及の目指すところでもあるのです。いずれにせよ、パワハラという不祥事を生んだ内向きの組織風土を変革するにはトップ（市長）の旗振り抜きには考えられませんが、残念ながら、その気概たるや、“熱量”を全く感じられない、それが現状だと思います。



芦屋市議会議員 大塚 のぶお 元朝日放送アナウンサー
現在 JR 芦屋駅南地区再開発事業調査特別委員会委員
【略歴】フルブライト奨学生で米国・加州立大留学(ジャーナリスト・プログラム)
『サンデープロジェクト』田原総一郎コーナー 担当ディレクター
朝日放送 広報部長 / 報道局 ゼネラルプロデューサー
BPO 放送倫理・番組向上機構 放送人権委員会 調査役
【座右の銘】「信なくば立たず」 【資格】JSA ワインエキスパート
【連絡先】携帯 090-1674-7747 メール nobufr30@outlook.jp